

交流、現状理解の機会に

沿岸と茨城の
高校生が参加 釜石で交流サッカー大会

大船渡市と釜石市、扱う側フェニックス
県外の高校生たちによ
る交流サッカー大会
「第2回Kappa
レゼンツ 大船渡・釜
石フェスティバル」は
4、5の両日、釜石市
球技場で開かれた。両
市のほか茨城県の3校
からもサッカー部員た
ちが参加し、競技を通
じた交流を深めるとも
もに地元出身のプロサ
ッカー選手から話を聞
くなどして被災地の現
状にも理解を深めた。
この交流大会は昨年
年、大船渡高校出身の
小笠原満男選手
(36)鹿島アントラー
ズIIらの発案により初
開催。スポーツブラン
ド「Kappa」と小
笠原選手が昨年まで契
約関係にあったことか
ら、同ブランドを取り
大船渡市と釜石市、扱う側フェニックス
(東京都新宿区)が運
営面でのバックアッ
プを行う。今年も釜石
市教育委員会スポーツ
振興課の協力を受け、
同社が主な運営にあた
った。
大会の狙いは、試合
を通じて選手の技術強
化を図ると同時に、本
県沿岸部がまだ復興
途上にあると県外の10
代に知ってもらうこ
と。震災発生後、高校
の同級生たちと大船渡
市赤崎町の仮設グラウ
ンド整備などに尽力し
た小笠原選手は、外部
から若い世代のプレー
ヤーを誘致し、地域経
済に寄与することや、
広く現状を伝える重要
性を訴える。
今回は大船渡、釜
石、釜石商工、大槌の
4校と、茨城県の竜ヶ
崎第一、日立商業、那
珂湊の3高校が参加。
このうち釜石・釜石商
工・大槌および、日立
商業・那珂湊は合同チ
ームとして出場し、4
チームによるリーグ戦
を行った。生徒たちは
人工芝のピッチで存分
にプレーし、本番
へ向け意識を高めた。
大船渡高校サッカー
部主将の菅祥令(よし
なり)君(2年)は、同
大会を「練習してきた
ことを試したり、新た
な課題を見つける場
になっている。他県のチ
ームに自分たちがどこ
まで通用するか見る機
会でもある。こういう
場をもらえることに感
謝しながらプレーした
い」と、大高OBらの
計らいに感謝を示し
た。
また、大会前日の3
日には茨城県の3校が
陸前高田市の被災状況
も見学。タビック45か
らかさ上げや高台造成
の様子、震災遺構など
を眺め、追悼施設で手
を合わせた。小笠原選
手も同行し、生徒たち
に「震災を人ごとだ
とってほしくない。こ
こで何か少しでも感じ
取ったら、それを持ち
帰ってもらい、友達や
家族に話して」と呼び
かけた。
フェニックス第二事
業部の緑川順子さん
大船渡高校サッカー部
が、釜石や茨城のチ
ームと対戦した釜石市
甲子町(電子新聞に別
写真あり)



(42)は「多感な高校生
たちに、現地の状況を
直接見てもらうのが何
より重要だと思ってい
る。去年この大会に参
加した生徒らも、やは
り何かしら「受け取っ
た」様子だった。いず
れは地元で自主開催さ
れたいと継続への意欲を
見せていた。
理想だが、それまでは
何年でも協力し続けた
い」と継続への意欲を
見せていた。